

事例9

関節リウマチ患者における就労継続支援－着付け師継続事例－

事例要約:リウマチ、50 歳代、現職継続

1. 患者情報

疾患名(障害名) 関節リウマチ(以下、RA)

年代 50 歳代

性別 女性

家族構成 夫(二人暮らし)

現病歴 X-8年 RA 発症。X-5年当院受診し、抗リウマチ剤とリハビリテーションにて治療継続中。

既往歴 虫垂炎・胆石症

生活歴 夫と同居。RA 発症前は主婦として家事一般は行っていたが、状態が悪化した際には夫の協力を得ている。通勤や買い物は自動車運転にて移動可能であった。趣味のゴルフや旅行を夫と楽しんでいた。

職業歴 高校卒業後着付け師の道に進む。着付け師として働いていたが X-8年 RA 発症。一時は状態が悪化し着付け師の廃業も視野に入れていたが、X-5 年当院に治療環境を変更後着付け師継続。

社会資源 特になし。(身体障害者手帳所持なし)

受診・作業療法に至る経緯

X-9年1月、手のこわばり出現。同年 12 月手関節痛、こわばり憎悪。X-8年1月近医受診。抗 CCP 陰性、CRP 陰性で経過観察となる。症状の改善が認められないため、他院に改めて受診。しかし、症状の改善がないため X-8年 4月当院受診。RA の診断にて薬物療法開始。X-5年症状増悪、肩関節痛出現、作業療法処方により外来作業療法(外来 OT)開始となる。

二ード 着付け師の継続

2. 他部門情報

連携機関 主治医、外来看護師

利用した制度 特になし

3. 作業療法評価 初回評価時(X-5年)

身体機能

ROM 肩関節痛による ROM 制限

関節症状 手関節手指疼痛及び腫脹

変形 母指 IP 関節過伸展、外反母趾

握力及びピンチ力 著しい低下あり、上

機能評価(STEF) 得点は年齢標準レベル

Pain VAS 8

ADL 自立(FIM:126 点)

IADL 家事動作(料理・洗濯)に支障をきたし、夫の協力を得る時あり

コミュニケーション 問題なし。

職業能力評価 問診により状況把握。

職業準備性 着付け師継続への不安あり。

4. 目標

着付け師の継続

5. 問題点・課題

利点 RA 疾患活動性増悪や変形の進行への不安はあるものの、着付け師継続へのモチベーションは高い。

問題点 関節症状の変化で着付け師の廃業を決断しなければならない時期が訪れた際の精神的落ち込み。仮に着付け師を継続した際の手関節や手指変形の発現及び進行度が未知数。

課題 関節症状をコントロールし、変形の進行を抑制しながら着付け師の仕事を継続することが可能か。

6. 作業療法介入

期間 X-5年より外来 OT 開始。

○X-5年4月 外来 OT 開始
○X-5年7月 当院 RA 短期リハビリ入院
○X-5年8月 外来 OT 再開
※着付け師継続中現在に至る

場所 外来

経過

X-8年 RA 診断受けるも、症状安定せず、2カ所のクリニックを渡り歩く。そのような状況の中、当院に入院経験のある知人の RA 患者より当院の受診を勧められ外来受診する。薬物療法(抗リウマチ剤)開始するも、肩関節痛は改善されないため外来 OT 処方となる。その後、肩関節痛は解消するも、手指の腫脹及び軽度の変形、足趾変形、足底痛の発現も確認。この症状が解消されないと着付け師を継続することは困難なため外来 OT 継続となった。

訓練内容

OT 治療プログラム 徒手療法、Splint 療法、自主トレーニング指導、関節保護指導、ADL 及び IADL 指導、着付け師の仕事内容評価及び継続のための課題解決方法検討、余暇活動継続のアドバイス

仕事内容

帯留め、十二単着の付け、仕事道具の運搬、裁縫

契約の場所によって、自動車での移動や公共交通機関を利用し、現場に向かう。着付けの件数は、契約状況によって異なる。

仕事継続のためのフォローアップ

着付けの実施件数が多い時には、関節への負担増(オーバーユース)により、筋緊張亢進、局所的軟部組織性炎症性疼痛が出現し、変形進行に繋がるため、実施後には速やかに身体機能の評価とメンテナンス¹(注 1)を実施する。手関節、手指、足趾など関節症状や変形の発現や進行が見られやすい部位に関しては、関節症状や変形抑制を目的に、Splint や足袋装具²(注 2)を作製した。

¹ 筋のリラクゼーション、関節モビライゼーション、筋力強化トレーニングなどの徒手療法を実施。

² 作製した Splint の種別

- ・手関節疼痛軽減及び MP 関節尺側偏位防止目的とした報告者オリジナル動的 Splint(ウエットスーツ製 MP ハンド Splint)の作製。
- ・裁縫時、母指 IP 関節が過伸展となり変形を助長するため、過伸展防止目的にセフティピン(3 点固定リング Splint)を作製。
- ・外反母趾矯正を目的とした Night 用外反母趾 Splint の作製。
- ・家庭内歩行時の足底痛軽減及び足趾変形防止目的とした足袋装具の作製。



ウエットスーツ製 MP ハンド Splint を装着し、帯留めと道具の運搬



母指セフティピン



Splint を装着し裁縫を実施



Night 用外反母趾矯正 Splint



足袋装具

・現在と将来構想に向けての継続支援

- ・介入当初の目的である着付け師継続中。
- ・仕事のスキルアップを目的に、新たに美容師の資格取得に向け専門学校に通学中。着付け師と美容師の二刀流を目指す。
- ・ボランティアで障害者向けの着付けや美容のイベントを開催する予定。
- ・医療保険で対応可能な環境であれば外来 OT で就労支援継続。

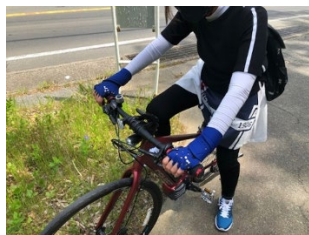


7. 成果・結果

- ・着付け師を継続できている。(社会参画継続)
- ・身体機能の維持ができている。
- ・新たな変形の発現及び進行は見られない。(ADL・IADL 自立)
- ・趣味のゴルフ、水泳、サイクリング実施継続。(QOL 維持向上)



ゴルフ



サイクリング

・今後の展望

着付け師は、個人事業主で職人でもあり、代わりの着付け師を立てることは困難なため、着付け師として契約するためには、身体機能を維持すること、痛み変形の発現を薬物やリハビリテーションで抑制し、仕事の質を担保することが必要不可欠である。そのためには、外来 OT の継続的介入は必要である。

8. 患者や会社側の声・意見など

「リウマチの診断を受けた時はショックと不安で、着付け師を廃業することも考えた。」

「知り合いのリウマチ患者からリハビリテーションの介入を勧められてよかった。」

「薬とリハビリテーションの併用で、状態の安定が確保でき、変形の新たな発現や進行もなく、着付け師を続けられていることは嬉しく思う。」

「仕事を一緒にする方々には、リウマチを患っていることを特に伝えていない。」



病院としての体制づくり

医療保険で実施する関節リウマチのリハビリテーションは、疾患別リハビリテーション料の運動器疾患の対象であり、さらに、難病リハビリテーション料にも該当し、発症後長期経過してもリハビリテーションによる効果が得られると医学的に判断された場合に限り、月 13 単位以内であれば、個別リハビリテーションを算定しても良いと診療報酬では明記されている。当院では、発症長期経過している患者であっても、身体機能や ADL の低下が認められる場合、月 13 単位内で外来や地域包括ケア病棟において、個別リハビリテーションの対応ができる体制を整えている。

事例提供

JA 静岡厚生連 中伊豆温泉病院 林 正春